

### ■山下俊明小林RC友好委員長

小林RCは口蹄疫で話題騒然の宮崎県にあります。三次クラブと誕生が同じということで姉妹縁組が取り交わされました。やがてお互いに生誕50年になろうとしています。最近の交流は、約10年前、40周年ということで行ったり来たりしました。ショッキングな思い出があります。

小林クラブへ10人くらいで訪問したときです。ゲストに「酒と泪と男と女」で一世を風靡した河島英五さんが歌とトークで会場を盛り上げました。隣の席の谷岡会員が「彼はもう永くないかもしれんでえ」と言われました。その後、1週間ほどで突然の訃報が報じられました。みんなびっくりしました。

肝心の今後の交流ですが、前田ガバナー誕生・スタートにあたって、個人的交友をもっている会員から「頑張ってください」と言われました。そのとき、私の方から申し出をしました。50周年は相互訪問でお会いしましょう、と言うと、その人曰く、「三次の地区大会には小林からも訪問させて頂きましょう」。思い起こせば随分昔、小林クラブから池田さんというガバナーを輩出され、小林市で盛大な地区大会を開催されました。わが三次クラブから、お祝いを兼ねて、天野英樹会員率いる三次太鼓とクラブメンバーが大挙、お祝いに駆けつけたのが思い出されました。

九州男児を絵に描いたような彼は「小林クラブの所属する地区も大会が鹿児島であるが、それはそれで何人かで必ずお祝いに行く」と宣言されました。以上、現状と今後の小林友好のお話とさせていただきます。

### ■山本和彦ロータリー財団委員長

1人の委員会であり、皆さまからの協力が無いといけません。事業計画は六つ。

①ロータリー財団への理解を深めていくことが大切です。古い人も新しい人も理解を深めていただきたいと考えています。

②年次寄付(1人110ドル以上といわれています)

③恒久寄付

④使途指定寄付(世界中で「ロータリーの2億ドルチャレンジ」という取り組みがあります)

⑤Rカード

⑥次年度地区補助金事業準備支援一があります。

ご協力をお願いします。

### ■明山晃映出席委員長

新家クラブ管理運営理事の下で1年間よろしくお祈いします。例会への出席がロータリー活動の始まりです。他の委員会とも連携し、出席しやすい雰囲気づくりに努めます。出席100%へなるべく近づけるべく、よろしくお祈いします。メイクアップになるから例会は休もうというのでなく、(三次クラブの)例会への出席もよろしくお祈いします。

### ■天野芳明ロータリー情報委員長

委員会と一緒に私自身も勉強し、ロータリーについて正しい知識を得ていただけるよう一生懸命やらせていただ

きます。

前田ガバナーや出向メンバーの情報、地区大会の準備状況など、会員全員が把握できていない面もあると思います。広報委員会と協議しながら情報がうまくはいるようにしていきたいと思っています。

研修委員会、研修委員長とも協議し、新入会員と入会3年未満の会員を対象に、勉強会を開催したいと思っています。ロータリーの知識を早く得て頂きたいと思っています。ご協力をお願いします。

### ■常光和信研修委員長(代読)

研修委員会といっても委員1人、兼任委員長1人ですので、十分なことはできないと存じますが、頑張ります。3点について本年度活動致したいと存じます。

1番目は、研修委員会での研修。日時も内容も検討中です。

2番目は、入会3年目までの会員を対象とした研修会。会員組織委として行います。ロータリー歴の古い方を講師に、新しい会員の皆さまにはロータリーについて研鑽をいただきたいと存じます。会場は私どもの覚善寺本堂を予定しています。

3番目は、第3期RLI「ロータリーリーダーシップ制度研修」です。次代を担う方、クラブを引っ張っていく方を対象とした研修会です。昨年度、私が担当しましたが、本年度、担当お1人の方を会長から依頼いただき、年度3回1日の研修に参加いただけます。1クラブから2人の参加も可能ですので、わがクラブからもぜひどんどん参加研修いただきたいと思っております。

### ■沖田憲司親睦活動委員長(代読)

ロータリーの基本であります親睦と友愛をこれまで以上に深められるような雰囲気づくりを目指したいと考えております。活動計画としまして、本年度は毎月夜間例会を行い、親睦活動委員会全員で盛り上げていこうと考えておりますので、1年間、よろしくお願い致します。

### ■灘岡直隆プログラム委員長

クラブ管理運営委員会、新家担当理事のもと、天野英樹副委員長と共に頑張りますので1年間宜しくお祈い致します。

事業方針に関してですが、クラブ創立50周年を迎える本年度は、通常のクラブ行事、特別月間行事、特別例会、会員・ゲスト卓話に加え、会長運営方針に従い親睦活動委員会に協力を頂きながら、積極的に夜間例会を実施し、会員相互に、より一層の理解・親睦をはかるプログラムをおこないます。

また、地区で実施されているプロジェクトに関連した例会プログラムも同様に設けるようにしたいと思います。

会員卓話の内容は基本的に自由なテーマと致しますが、出来れば三次ロータリークラブ創立50周年を迎えての思いや地区での活動や大会関連に携わっている方はそれぞれの情報などのご紹介を交えてお話をお願い出来ればと思っております。

2010年 7月15日(木)

第3号

本日のプログラム	ゲスト卓話
次回例会	7月22日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	会計報告/会員卓話

## 例会記録・・・7月8日

- 点 鐘・・・・・・中川筆之 会長
- ソング・・・・・・「君が代」「我等の正業」
- ビジター・・・・・・奥田卓三(吉舎) 大前治夫(三次中央)

## 会 長 挨拶 ■中川 筆之 会長



前回に引き続き、江戸時代を支えた日本人の心パート4ということで、話をします。明治維新の土台となった、当時の日本の教育の高さですが、庶民の学校は寺子屋とか手習い所というところで行われました。当時、日本中に4万校あった、と明治政府が報告しています。実際にはもっとあったのでは、と最近の研究者は言っています。ここで、庶民は読み書きそろばんを教えられました。この寺子屋に通っていた年齢は6歳から11歳、12歳で、ちょうど今の小学校にあたるということです。しかし、当時と今を比較すると大きな違いがあるということです。寺子屋の教え方は、師匠に一人の子どもが付く1対1の師弟関係だったそうです。当然教育は個人単位で学年とかクラスとかいう概念は全くありませんでした。子どもは千差万別ですから、一人一人の資質に合わせて教育を行うというのが当時でした。イロハの読み書きは全員習いますが、違うのは、例えば商売人の子どもには商売の教育、大工には大工専門の教育というふうに、一人一人違う教科書が与えられたそうです。例えば商売の教育には商売の言葉、漢字、土地の名前や街道の名前など、商売に必要なものを教えられます。また大工の専門には、材木の名前や家の造り方に関するやり方が教えられたらしいです。江戸末期、寺子屋で使われていた教科書は約7000種類あったといわれています。挿絵があったそうですが、挿絵はかの有名な葛飾北斎とか歌川広重とかが、文章は滝沢馬琴や十返舎一九たちが書いていたそうです。読んでみますと七五調になっていて、当時の子どもたちも覚えやすかったのではないかとわれています。一方、侍武士は、各藩が藩校をつくり、そこで教育を行っていたそうです。内容は儒学が中心で、今で言うと道徳が基本だったようです。例えば「年長者の言うことに背いてはなりませぬ」「嘘を言うことはなりませぬ」「卑怯な振る舞いをしてはなりませぬ」「弱いものをいじめてはなりませぬ」...と毎朝声を上げて読んでいたそうです。本日は以上です。



**幹事報告** ■石田 光司郎 副幹事

■2009－10年度岡田ガバナーよりお礼状  
 ■三次中央より会報

**出席報告** ■明山 晃映 委員長

6月24日の出席報告					本日（7月1日）の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
43	29	3	6	83.72%	42	26	5	11

Make-up 前田（分科会研修）・小田(聡)（三次中央）・藤谷（庄原）

**SAA報告** ■属 吉行 SAA

スマイル18,000円

奥田卓三 藤谷博義 山本和彦 本人誕生月 夫人誕生月 創業月 一年間お世話 になります	本年度も宜しく申し上げます。 入会以来28年連続皆出席の表彰を受けました。健康のお陰と思っております。 ハウスピオーネが7月10日の出荷になります。今年も宜しく申し上げます。 小田大治・常光和信・増田茂典 沖田憲司 沖田憲司 小田大治・増田茂典
--	--

**プログラム**

**委員長計画発表**

**■増田茂典理事・広報担当／会報作成・IT広報委員長**

新年度のスタートを切ってから、あらためて大変だということを実感しているところです。景気の低迷の影響もあり会員の減少を目の当たりにしている現在、広報をもっと考えてみようという風潮が高まっています。そういう背景も含めて広報のあり方を考える年にできたらと思います。

皆さんにお願いしたいことがあります。  
 対外的な広報活動をこれからしていくためにも、現在の週報への業務を軽減していく必要があるのではないかと考えています。具体的には、原稿を、欲を言えばワードなどの文章データを必ず用意頂きたいと思っております。それは、ゲストの方にもお願いしていきたいと考えております。

お話頂いた内容を、場合によっては時間をかけてテープから起こす地道な作業をしていますが、経験したものでなければわからない大変さがあります。そうした過度の負担をなくすために、また、ゲストのお話をちゃんと週報として記録に残させて頂きたい旨お話して、理解を求めていく所存です。

原稿等を頂けない場合は、簡条書きとさせて頂きたく、ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

地区への出向が重なっている会員の方も多いかと思いますが、ぜひ助け合って一眼となり前田ガバナーと中川会長を盛り立てていきましょう！

**■小田大治副会長 R財団・米山奨学会担当理事**

R財団委員長に山本和彦会員、米山奨学会委員長に藤井憲昭会員、2委員会兼務委員に今澤榮一会員、内藤良道会員で組織を構成致します。1年間どうぞ宜しくお願い致します。

世界中のロータリアンが様々なプログラムを実行致しております。そのプログラムに参加する事、つまり財団に寄付をする事でもあります。また、自らがプログラムを計画立案、実行とする場合、世界中のロータリアンに参加して頂く事、それは地区補助金などを活用したりする事でもあります。

皆さんの寄付は、全額プログラムに反映されます。財団の運営に伴う費用は、利息などから捻出

され、元金が流用される事はないところが他の団体とは異なるところであります。

2013年からは制度が見直され、一部今年から新制度に移行しているパイロット地区があります。従って地区の財団は今年度後半から新制度に移行する準備に入ります。

たとえば地区補助金制度など現行はクラブから提出された申請書を地区が審査し、日本事務所を経由しイリノイ州エバーストンの財団本部が最終審査決定を行います。世界中のプログラムを審査する訳ですから 膨大な時間と労力が必要になる訳です。

この様な事は全て地区に任せることになった訳であります。これまで出来なかったプログラムも地区が認めれば可能になった訳であります。自分たちの活動が素晴らしい事を地区が認めれば世界中のロータリアンから集めた寄付をこの三次に使うことも可能な訳であります。

素晴らしい企画を立案し 少人数のクラブでも世界中の人々に感動を与えることは可能な訳であります。

また、PHFなど受賞されていて当然の会員が申請の仕方によって出来ていないなどがありましたので後日改めて時間を頂き説明致します。100%PHFクラブ表彰も夢ではありません。

委員会の活動はお2人の委員長に頑張ってもらいますが、皆さんのご協力に感謝致します。

**■属吉行SAA**

昨年8月に入会させていただき1年が過ぎようとしています。ロータリアンの経験がほとんどない私にとり、SAAという役目は非常に重たく感じております。

秩序正しく品位ある例会運営を目指して頑張っていきたいと頑張っておりますが、なにぶん分からないことも多く、行き届かない点もあろうかと思っております。皆様方のご指摘、ご指導をいただき、努めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

**■為石肇 副SAA**

属SAAのご指導を受けながら一生懸命努めていく所存です。皆様方のご協力をよろしくお願い致します。